

**2508** 大腿骨頸部骨折患者の骨シンチグラフィー  
大森薫雄（神奈川県立厚木病院整形外科），服部  
文夫（同 放射線科），宮島昭博，沢井博司（慈  
恵医大整形外科）

大腿骨頸部骨折患者に骨シンチグラフィーを行い、  
本法がその骨癒合の時期を判定するうえにおいて有用  
であるか否かにつき検討したので報告する。

対象は昭和53年以降，当院整形外科で治療した大  
腿骨頸部骨折患者86例で，その平均年齢は76.7才  
である。解析方法はテレビのカラーモニターの上にマ  
ップ表示を行い，その画像における局所病変部位，な  
らびに健側肢のそれに対応する部位に任意の関心領域  
を設定し，これらの領域内の総カウント数を算出して  
左右の集積比を求めた。

全例，受傷側に集積の増強がみられ，長期間にわた  
り骨折部の構築の改変が行われていることがうかがわ  
れた。また偽関節をいし遷延治療が疑われる症例では  
3ヶ月以後でもなお強い集積比が認められた。

以上より，骨シンチグラフィーによる経時的観察は，  
骨癒合の程度，合併症の早期発見などにおいて有用で  
あり，術後の成績判定にも応用できる。

**2509** 関節シンチグラフィーによるRAの活動性  
評価

大森薫雄（神奈川県立厚木病院整形外科），服部  
文夫，林 茂利（同放射線科），宮島昭博，沢井  
博司（慈恵医大整形外科）

関節シンチグラフィーにより，手指関節炎の活動性  
の評価を試みたので，その成績につき報告する。対象  
は当院整形外科で治療中の classical および Defi-  
nite RA 患者36例である。解析方法はテレビのカラ  
ーモニターの上にマップ表示をおこない，その画像の  
M P 関節ならびに各指の基節骨中央部にそれぞれ10ヶ  
ずつの関心領域を設け，各指につき骨部と関節部とに  
おけるカウント数の比を求めて炎症関節の index と  
した。

両手の Tc-index の平均値と，赤沈値ならびに  
CRP 値との間には相関関係がみられた。また薬効の評  
定に応用できるか否かを検討するため，ステロイド剤  
投与後の Tc-index の推移をみたところ，16 手中 3 手  
を除き殆んど症例が治療後，Tc-index の低下をし  
めし病勢の鎮静化がみられた。

以上の成績から，関節シンチグラフィーから得られ  
た Tc-index は，炎症の活動性の判定，治療経過や  
薬効の判定などに客観的な評価法として応用できる。

**2510** 慢性関節リウマチにおける関節シンチグラ  
フィの臨床的検討

島袋固定，城野和雄，坂田博道，中條政敬，  
篠原慎治（鹿大・放）

慢性関節リウマチ（RA）40症例に対して， $^{99m}\text{TcO}_4^-$   
による関節シンチグラフィを施行し，以下の結果を得  
，有用であると思われたので報告したい。

1. 40症例，1670部位の症状の有無と集積の有無の比  
較では両者の一致率は81%と高く，RAの客観的評価法  
として使用しうるものと考えられた。

2. CRP，血沈と集積の程度との間には正の相関がみ  
られ，RAの活動性の評価法として有用であると考えら  
れた。

3. 骨 X 線検査との対比では，骨 X 線写真上変化がみ  
られない早期 RA（Stage I）の症例でも集積がみられ  
る例が多く，病変部位の早期発見にも有用であると考  
えられた。

4. 関節集積曲線の検討では，RAの T<sub>1/2</sub> は正常例や他  
の関節疾患に比べて短かく，鑑別診断の一助になりう  
るものと思われた。

**2511** 顎骨に発生した動脈瘤様骨嚢腫の核医学  
的検査所見

奥山武雄，鈴木 均，桑原雄二，峯 博子  
鈴木宗治（東医歯大・放）

顎・顔面領域の骨の異常を対象にして核医学的  
検査を施行した76症例中，極めて稀な下顎骨由  
来の動脈瘤様骨嚢腫の2症例（6才男児，12才  
女児）を経験した。興味ある所見が得られたので，  
鑑別診断上の情報に着眼して述べる。

単純 X 線写真では，境界比較的明瞭な骨膨隆の  
著しい透亮像を示し，鑑別上種々の嚢胞，血管  
腫，エナメル上皮腫あるいは悪性腫瘍が問題とな  
った。

骨スキャンでは病巣の辺縁部に顕著な輪状集積  
像が見られた。その所見はエナメル上皮腫と類似  
しているが，歯源性角化嚢胞とは異質であった。  
RI アンギオでは RI 集積の増強，ブールスキャ  
ンでの陽性像共に見られず，X 線アンギオの裏付  
けとなり，特に血管腫との鑑別に有用であった。

CT では，骨皮質の菲薄化を伴う骨膨張と内部  
の粗大な骨梁分画像が観察された。

以上を総括し，顎骨の腫瘍または腫瘍性疾患に  
対する核医学的検査の意義について言及する。